岩滝用水を訪ねて

坂東 直道（友の会会員）

阿波市閖ノ口地区に岩滝用水（上湧）といって，岩山を掘削して造った約500mの隧道（トンネル）がある．日開谷川に横堰を設けて水嵩を上げ，上喜来地区180町歩に給水する用水路の起点である．この地は阿讃山脈から流出した土砂の堆積した扇状地で，これまで干害や洪水被害に絶えず苦しめられていた．岩滝用水の開削により安定的に水が供給できるようになり，畑地が水田化し，二毛作ができるようになった．他地域住民からは羨望の眼で見られ，近年，郷土史研究者や社会科学習の一環として児童・生徒の見学が多いとのことである．トンネル出口に石碑が建てられ，工事の概要が記されている．碑文を解読し，トンネル調査の概要を報告する．

1 用水開削過程（碑文より）

石碑正面には「水神宮」と大書され，工事の時期・理由・世話人の名前等が記されている．

当村御用水之儀天保元庚寅年迄日開谷村従井筋以懸樋引水路然且旧田畝以－－－－．

当村の用水は，天保元（1830）年まで日開谷村の井筋から懸樋を使って水路を引いていた．しかし，もとの田は入り組んで，これを灌漑するには不十分であった．20日ほど干天が続くと水が乏しくなるので，勝柄谷口から新たに岩嶽を穿ち抜く計画をした．そこで，その旨を申請したところ，役人は直ぐに許可した．翌年春には，領主から費用が下された．住民は続けて工事をし，141間（254m）の水路を開いた．下に主要な人物の名を記し，慎み深く尽力した功績を顕彰するものである．ことさらに文を記した．誰もに簡単に読ませ，善行の人たちが用水路開削の事業を起こしたことを教えるためである．

図1　隧道出口と石碑

図2　石碑　正面・左右側面に工事概況を記す

開基（開祖）4名　肝煎（世話人）4名

百姓総代1名　石工棟梁備前文右衛門

石碑左側面には，弘化四丁未年大洪水付添井手屍成候分大破及再応御普請奉願上－－．

弘化4（1847）年，大洪水のため堰に沿ってゆがみが生じた．さらに割れて大破した．再び，直ちに普請を申請したところ，工事を仰せつけられた．翌年春，110間（198m）掘り添えた．前のに代えるには規則を以て行うべきである．

御用水裁判（用水の管理者）4名　総代2名

石工1名

石碑右側面には，慶応二丙寅年八月末洪水付冗功相成其上年々毎出水大破壊及其由奉

慶応2（1866）年8月，洪水のため役に立たなくなった．その上，毎年の出水のために激しい破壊に及んだ．その旨を嘆願した．

明治4（1871）年，47間（85m）を新たに掘り添える普請を仰せつけられた．費用の3割は地元から拠出したものである．

水利肝煎3名　総代1名　石工2名

2　隧道の実測結果と概要

掘られた隧道の岩質は砂岩と泥岩の互層となっている．隧道の全長は483m．取水口を0m とすると，30間（約50m）ごとに隧道内に堆積する土砂排出と，明かり取りとして横穴が6カ所掘られている．掘り間違えたと思われる穴も2カ所あり，コウモリの巣窟となっている．隧道内の広さは場所によって違うが，幅約2m，縦約1.2～2.5m である．

隧道内には，天井の所々に小さな鍾乳石が見られ，ユビナガコウモリが群棲している．側壁にはヨリメグモ・チビホラヒメグモ等の蜘蛛が，水中にはマシジミ・サワガニ・カワヨシノボリ（ジンゾク）等の生息が確認されている．

3　土地所有の一極集中化

市場町役場に，明治20（1887）年より土地所有状況を記録した「固定資産課税台帳」がある．それによると，岩滝用水開基として記されている二人の家が良田をほとんど所有している．明治20年以降にも田畑を買収し続け，所有地を拡大している．聞き取り調査によると，年貢の取り立てに関係して土地を手放し，自作農から小作農に転じたと言われている．大俣村誌（昭和30年発行）によると，高率の小作料が課せられ，農民は働いても働いても浮かばれることはなかったとして，反当たりの平均収穫量と法定年貢が記されている．

本県では藩政時代以来，裏作の麦にも米の7割の小作料が課せられたのは，他府県では例のないものだった．昭和21（1946）年1月26日，農林省告示第14号で農林大臣の指示する物納換算基準価格は，田一反につき1石6斗～1石である．それに対して上喜来地区の平均反当たり収穫量は1石6斗～1石で，収穫はほとんど年貢として徴収されていたようだ．用水の開削で水田化が進むにつれて，地主層対自作農・小作農の対立軸が明確になってきている．昭和22（1947）年の農地改革によりオール地主化し，農地所有の格差は解消された．

4　岩滝用水の現況

昭和35（1960）年以降，阿波用水・北岸用水が敷設され，岩滝用水の必要度は減じたが，今なお地域に欠かせぬ用水として利用されている．隧道開削というとてつもない先人の苦労と功績が，農民生活にいろいろな影響を与えたが，開削から175年を経た今も多くの人に利用されていることで，開削の意義を再確認している．現在，小学校社会科郷土資料としても紹介され，小学生が先人の苦労と功績を学習してくれていることを，たいへん嬉しく思っている．

参考文献

1 市場町史（市場町役場　平成8年）
2 大俣村史（大俣村役場　昭和30年）
3 固定資産課税台帳（市場町役場　明治20年起）
4 徳島県農地改革史（船橋治　不二出版）